

銚田市立銚田南中学校
部活動の運営方針



令和 8 年度

銚田市立銚田南中学校

目次

I 「銚田南中学校部活動の運営方針」策定の趣旨・・・・・・・・・・ 2

II 部活動の方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

- 1 学校教育の一環としての部活動の適切な活動
- 2 適切な部活動の運営のための体制整備
- 3 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組
- 4 適切な休養日等の設定
- 5 生徒のニーズを踏まえた環境の整備
- 6 事故等への対応
- 7 学校単位で参加する大会等の見直し

はじめに

- 本校の部活動は、生徒が興味・関心のあるスポーツや文化及び科学等の活動に参加し、各部活動の責任者（以下「部顧問」という。）の指導の下、学校教育活動の一環として行っている。
- 部活動では、生徒の自主性や協調性などが育まれるとともに、部員同士が同じ目標に向かって活動することで、豊かな人間関係を築くことができる。さらに、部活動での学びや経験が、生きていく上での支えにもなる。
- このように、部活動は、生徒がよりよく生きていくための健やかな心身の発達を促し、本校の教育目標「確かな学力を身に付けた創造力豊かな生徒を育てる」、「豊かな情操と愛校心に満ちた生徒を育てる」、「心身ともに健康でたくましく生きようとする生徒を育てる」につながる大切な教育活動である。
- 今日においては、社会・経済の変化等により、教育等に関わる課題が複雑化・多様化し、学校や教員だけでは解決することができない課題が増えている。とりわけ、少子化が進展する中、部活動においては、従前と同様の運営体制では維持が困難となることが考えられる。
- そこで、本校の部活動のあるべき姿を明確にし、生徒にとって一層有意義な活動とするために、運動部活動の在り方に関し、今年度の本方針を策定する。

I 「銚田南中学校部活動の運営方針」策定の趣旨

- 「銚田南中学校部活動の運営方針」（以下、「本校運営方針」という。）は、全ての生徒にとって望ましい部活動の実施環境を構築するという観点に立ち、部活動を以下の点を重視し、地域、学校、競技種目、分野、活動目的等に応じた多様な形で実施することを目指す。※銚田市部活動運営方針(改訂版)に基づき策定

- ◇ 知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む「日本型学校教育」の意義を踏まえ、部活動においては、以下の点を重視するとともに、バランスのとれた心身の成長と豊かな学校生活を送ることが実現できるようにする。
- ・運動部活動においては、生徒が運動やスポーツを主体的に楽しむことで運動習慣の確立等を図り、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図る。
 - ・文化部活動においては、生徒が生涯にわたって学び、芸術文化等の活動に親しみ、多様な表現や鑑賞の活動を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努める。
- ◇ 部活動は、生徒の自主的、自発的な参加により行われるものであり、本校は、学校教育の一環として教育課程との密接な関連を図り、適正な時間管理の下、合理的でかつ効率的・効果的な運営に努める。また、生徒の自主性・自発性を尊重し、部活動への参加を義務づけたり、活動を強制したりすることがないように留意する。
- ◇ 学校全体として部活動の運営及び指導に係る体制構築に努めることとする。
- ◇ 文化部活動は、その多様性に留意し、可能な限り、生徒の多様なニーズに応じた活動が行われるよう、実施形態などの工夫を図ることとする。

- 本校においては、国が策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」、「文化部活動の在り方に関する総合的ガイドライン」並びに茨城県が策定した「茨城県部活動の運営方針」、銚田市が策定した「銚田市部活動の運営方針（以下、「市運営方針）」に則り、今後、持続可能な部活動の在り方について検討し、改革に取り組むこととする。

Ⅱ 部活動の運営方針

1 学校教育の一環としての部活動の適切な活動

◆ 部活動は、学校教育の一環として実施する教育活動であり、生徒にとって豊かな学校生活を経験する有意義な活動であるとともに、体力の向上や健康の増進、豊かな心や創造性の涵養においても極めて効果的な活動であることから、学校の教育目標、経営方針に基づき、計画的に実施する。

- 部活動は、生涯にわたって豊かなスポーツライフ・芸術文化等の活動に親しむ生活を実現する資質・能力を育成し、体力の向上や健康の増進、豊かな心や創造性の涵養を図るだけでなく、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教員等との好ましい人間関係の構築を図るとともに、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、生徒の多様な学びの場として大きな意義を有するものであることから、学校の教育目標及び経営方針に基づき、今後も計画的に実施する。
- 部活動は、部顧問の個人的な判断で活動の是非を問うものではなく、全教職員の共通理解の下、生徒のバランスのとれた生活と成長に配慮するとともに、部顧問の指導に係る業務の適正化が図られるよう、学校としての組織力を高めながら、学校全体の教育活動として適切な部活動の運営を図っていく。
- 本校は、保護者及び地域に対して、学校の担うべき部活動の目的や部顧問の指導に係る業務等について、理解と協力を促す。
- 本校は、PTA総会やホームページ等を利用して、保護者及び地域に対し積極的に部活動に関する情報提供を行い、学校と地域並びに保護者間の共通理解を図る取組を推進するとともに、学校公開等の機会を積極的に活用して、学校としての部活動の運営方針について広く発信し、理解を求める。

2 適切な部活動の運営のための体制整備

- ◆ 校長は、「県運営方針」並びに「市運営方針」、「本校運営方針」に則り、毎年度、「学校の部活動に係る活動方針」を策定する。
また、部顧問は、年間の活動計画（平日及び休日における活動日、休養日及び参加を予定する大会等）、並びに毎月の活動計画及び活動実績（活動日時・場所、休養日及び大会参加日等）を作成し、校長に提出する。

(1) 部活動の方針の策定等

- 校長は、「学校の部活動に係る活動方針」及び「活動計画及び活動実績」を学校のホームページ等への掲載等により公表する。
※ ここでいう「活動計画」とは、部顧問が作成する年間及び毎月の活動計画を示す。

(2) 部活動の指導・運営に係る体制の構築

- 校長は、生徒及び教員の数、部活動指導員等の配置状況等を踏まえ、生徒の安全確保、指導内容の充実と、部顧問の指導に係る業務の適性化を図る観点から、円滑に部活動の運営が実施できるよう、部活動数や入部人数の調整を図る。
- 部活動の運営に関する校内組織体制として、「部活動運営委員会」等を設置し、教職員のみならず、保護者や地域のスポーツ・芸術文化活動等関係者、学校医なども加え、生徒の発育・発達の段階に応じた適切な活動内容や時間（量）、学校と保護者及び地域間の連携方策について、幅広く議論を深めつつ、十分な理解と協力を得る。
- 校長は、各部の毎月の活動計画及び活動実績の確認等により、各部の活動状況の把握に努めるとともに、生徒が安全に部活動を行い、生徒及び部顧問の負担が過度とならないよう、適宜、指導・是正を行う。
- 本校においては、特に競技や実技、指導経験のない部顧問を対象として、指導に必要とされる基礎的・基本的な知識はもとより、専門的かつ高度な知識に基づく科学的なトレーニング理論や、できるだけ短時間に合理的かつ効率的・効果的な指導方法の習得をめざす研修会に参加し、部顧問の資質及び指導力の質的な向上を図る。
- 本校においては、近隣の学校間における連携や、中学校や高等学校など

異校種間での合同練習会等の機会を充実させ、指導者間における指導に関する情報等の積極的な共有を図る。

3 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

◆ 学校は、部活動を組織的に運営するとともに、生徒の生活や健康に留意しながら、部顧問の指導に係る業務の適正化を図るため、できるだけ短時間に合理的でかつ効率的・効果的に活動していくこととする。

(1) 適切な指導の実施

- 校長及び部顧問は、部活動の実施に当たっては、文部科学省が平成25年5月に作成した「運動部活動での指導のガイドライン」に則り、生徒の心身の健康管理（スポーツ障害・外傷の予防やバランスのとれた学校生活への配慮等を含む）、事故防止（活動場所における施設・設備の点検や活動における安全対策等）及び体罰・ハラスメントの根絶を徹底する。

また、生徒の主体的で意欲的な取組を支援するために、次の5つの指導原則を定める。

- その1 生徒が主体的に自立して取り組む活動を進める。
- その2 体罰や暴言の禁止を徹底する。
- その3 生徒の健康状態や発達段階を考慮し、適切な活動量で行う。
- その4 安全管理を徹底する。
- その5 肯定的な指導等を通して、生徒との信頼関係づくりをする。

- 運動部顧問は、科学的な見地にに基づき最大のトレーニング効果を得るため、計画的に休養日を設定することが必要なこと、また、過度の練習はスポーツ障害・外傷のリスクを高め、必ずしも体力・運動能力の向上につながらないこと等を正しく理解する。

また、専門的知見を有する保健体育担当の教員や養護教諭、学校医等と連携・協力して、発育・発達の個人差をはじめ、特に成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を得た上で指導を行う。

- 文化部顧問は、生徒が生涯にわたって文化・科学等に親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図り、生徒がバーンアウトすることなく、それぞれの目標を達成できるよう、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。

- 部活動の運営をマネジメントしていく観点から、部活動経営の基本として「PDC Aサイクル」を着実に実施することが必要である。

さらに、計画(Plan)前に、調査(Research)、計画の目標(Object)等を加え、より最適な運営を目指した工夫・改善に努めることが重要である。

- 1 P l a n (計画)・・・実績や生徒の実態に応じて作成
- 2 D o (実施・実行)・・・計画に沿って安全に実施
- 3 C h e c k (点検・評価)・・・実施状況や効果・成果を点検・評価
- 4 A c t i o n (処置・改善)・・・実施計画や活動内容の見直し、改善

- 部顧問は、活動目標、指導方針、出場試合・大会等、具体的な練習内容や方法等について、生徒や保護者が十分に理解できるよう適切に伝えることが重要である。また、日頃の指導においても、部顧問と生徒間のコミュニケーションを十分に図り、練習においてできるだけ短時間に「誰が、何を、いつ、どこで、なぜ(どのような目的で)、どのように行えばよいか」等を的確に伝え、理解させるとともに、安全に徹した指導が実現できるようにする必要がある。

(2) 部活動用指導手引きの活用

- 部顧問は、中央競技団体又は文化部活動に関わる各分野の関係団体等の指導手引きを活用して、3(1)に基づく指導を行う。

(3) 熱中症事故の防止

- 校長は、生徒の生活や健康に留意するとともに、熱中症事故の防止等の安全確保を徹底するため、「熱中症予防運動方針」(公益財団法人日本スポーツ協会)等を参考に、部活動の実施について適切に判断する。また、気象庁の高温注意情報及び環境省熱中症予防情報サイト上の暑さ指数等の情報に十分留意し、気温・湿度などの環境条件に配慮した活動を実施する。その際、屋内外に関わらず、活動の中止や延期、見直し等柔軟な対応を検討する。特に、暑さ指数(WBGT)が31℃以上の場合には、原則として活動を行わない。

- 校長は、高温や多湿時において、大会等が予定されている場合や練習試合、練習については、大会等の延期や見直し、練習試合、活動の中止等、柔軟な対応を行う。また、止むを得ない事情により開催する場合には、参加生徒の体調の確認(睡眠や朝食の摂取状況)、こまめな水分・塩分の補給や休憩の取得、観戦・観戦者の軽装や着帽等、生徒の健康管理を徹底する。万が一、熱中症の疑いのある症状が見られた場合には、早期の水分・塩分

補給や体温の冷却，病院への搬送等，迅速かつ適切な対応を徹底する。

4 適切な休養日等の設定

- ◆ 運動部活動における休養日の確保及び活動時間については，生徒のバランスのとれた生活と成長に十分配慮するとともに，スポーツ医・科学の観点からのジュニア期におけるスポーツ活動時間に関する研究も踏まえ，望ましい活動時間を設定することとする。
- ◆ 文化部活動においても長時間の活動は精神的・体力的な負担を伴い，望ましい生活習慣の確立の観点からも課題があるため，授業及びその準備のための時間や生活時間全体とのバランスを見ながら，活動時間を設定することとする。

- 本校では，学期中は週当たり2日以上休養日を設ける。
(平日は少なくとも1日，土曜日及び日曜日（以下「週末」という。）はいずれか1日以上を休養日とする。また，週末に続けて活動した場合は，休養日を他の日に振り替える。)

- 長期休業中における休養日の設定は，学期中に準じた扱いを行う。また，生徒が十分な休養を取ることができるとともに，部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう，ある程度長期の休養期間（オフシーズン）を設ける。

- 本校では，1日の活動時間は，平日は2時間を上限とし，休日は3時間を上限とする(準備・休憩・安全点検・片付け等の時間は除く)。できるだけ短時間に，合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。また，活動時間の上限を超えて活動した場合，他の日に休養日を振り替える。休日の活動において上限を超えた場合は，他の休日に休養日を振り返る。

- 活動時間の取扱いについては，下記のとおりとする。

活動時間	活動時間外
・心身の活動を伴う活動 ・試合前・間・後のミーティング ・大会の補助員 ・他の試合の観戦や演奏の鑑賞 (指導者の指示で行う場合)	・昼食 ・集合場所までの移動 ・他の試合の観戦や演奏の鑑賞等 (自らの意思で行う場合)

- 心身の疲労が解消できる十分な休養をとるための時間の確保や、学校生活に支障を来すことがないように、原則として朝の活動は行わず、放課後の限られた時間で活動していく。
- 全国中学校体育大会及び県新人体育大会，全日本吹奏楽コンクール等のいずれも予選を含む試合前は，日々の努力の積み重ねの成果を存分に発揮することが必要とされる重要な期間である。そのため，朝の活動については，全国中学校体育大会及び県新人体育大会，全日本吹奏楽コンクール等の予選前1ヶ月間程度，校長の許可を得た上で実施できることとする。
- 校長は，上記の基準を踏まえるとともに，「市運営方針」に則り，各部活動の休養日及び活動時間等を設定し，公表する。
また，各部活動の活動内容を把握し，適宜，指導・是正を行う等，その適切な運用を徹底する。
- なお，休養日及び活動時間等の設定については，地域や学校の実態を踏まえ，定期試験等の実施前の一定期間を，学校全体の部活動休養日として設定する。
- 本校においては，部活動の休養日として，下記の日または期間を部活動休養日または部活動休養期間とする。
- ・ 2月12日（創立記念日）
 - ・ 11月13日（県民の日）
 - ・ 8月13日～15日
 - ・ 12月27日～1月4日

5 生徒のニーズを踏まえた環境の整備

◆ 学校は，生徒の多様なニーズを踏まえた部活動の設置や，学校の実情に応じた合同部活動等の推進，部活動指導員等の積極的な活用を図るとともに，地域の部活動に関係する団体と連携するなど，組織として体制を整えていく。

(1) 生徒の多様なニーズを踏まえた運動部活動の設置

- 生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができる運動部活動の設置の検討が必要である。

具体的に、より多くの生徒の運動機会の創出が図られるよう、季節ごとに異なるスポーツを行う活動、競技志向でなくレクリエーション志向で行う活動、体力づくりを目的とした活動等、生徒が楽しく体を動かす習慣の形成に向けた動機付けとなるものなどが考えられる。

- 少年期におけるジュニア・アスリートの育成については、必ずしも、学校における全ての運動部活動が担うものではない。とりわけ、高い資質・能力を有し、競技力向上のための質の高い活動が必要とされる生徒に対しては、各種団体等の外部の協力を得るなどして、組織として育成体制を整えることが必要である。

その際、運動部顧問の負担軽減を図るため、顧問が、地域の指導者として恒常的に参加することがない仕組みづくりに努めるとともに、生徒のバランスのとれた生活や健全な成長に配慮した指導体制をとることができるよう仕組みづくりをする必要がある。

(2) 生徒の多様なニーズを踏まえた文化部活動の設置

- 校長は、部活動が生徒の自主的、自発的な参加に基づくものであり、現在の文化部活動が、性別や障害の有無を問わず、生徒の多様な潜在的ニーズに必ずしも応えられていないことを踏まえ、技能等の向上や大会等の好成績以外にも、友達と楽しめる、適度な頻度で行える等、生徒が参加しやすいような多様なレベルや生徒の多様なニーズに応じた活動が行うことができる文化部活動の工夫を図る。

(3) 地域との連携等

- 校長は、生徒のスポーツ環境・芸術文化等の活動に親しむ機会の充実の観点から、学校や地域の実態に応じて、地域の人々の協力や地域のスポーツ団体、芸術文化関係団体及び社会教育関係団体等の各種団体との連携、保護者の理解と協力、民間事業者、社会教育施設及び文化施設の活用等による、学校と地域が共に子供を育てるという視点に立った、学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ環境や持続可能な芸術文化等の活動のための環境整備を推進する。

- 公益財団法人茨城県体育協会、県内各競技団体及びその他のスポーツ団体と連携して、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の生徒が所属する地域のスポーツ団体に関する事業等について、学校と地域が協働・融合した形での地域のスポーツ環境の整備を推進する。

また、鉾田市教育委員会が実施する部活動指導員の任用・配置や、運動

部顧問等に対する研修等，スポーツ指導者の資質の向上に関する取組についても，各種団体との連携を図る。

- 芸術文化等における各分野の関係団体等と連携し，学校と地域が協働・融合した形での芸術文化等の活動を推進する。

また，銚田市教育委員会が実施する部活動指導員の任用・配置や，文化部活動の指導者等に対する研修等，芸術文化等の活動の指導者の質の向上に関する取組についても，各種団体との連携を図る。

6 事故等への対応

- ◆ 部活動の実施にあたっては，生徒の生命・身体・健康の安全を優先する。
- ◆ 部活動顧問はもとより生徒自身も安全意識を高め，健康や環境に十分配慮して事故の未然防止に努める。
- ◆ 事故や傷病の発生時に，当該生徒の救護や応急処置を最優先に行うことができるよう，救急体制を整備しておく。(練習，校外での大会・試合等)
 - ・生徒の健康状態，練習内容や練習場所，用具の使用，気象状況等に留意する。
 - ・消防署・医療機関等との連携を図る。

- 自然災害等への対応

本校での活動中は，学校の危機管理マニュアルに則って対応する。なお，大会においては，大会規定によるものとする。

- 部活動中の事故・傷病への対応

部顧問は，随時，生徒の体調等の確認，使用する施設・設備や用具等の定期的な安全確認を行うこと。また，事故が起こった場合の対処の仕方を定期的に確認するとともに，医療関係者等への連絡体制の整備を行うことで，事故発生時に適切に対応できるようにする。

- 保険について

部活動中の生徒の災害（負傷，疾病，障害等）については，「学校の管理下」に該当するため，日本スポーツ振興センターによる災害共済給付制度の給付対象となる。さらに，日本スポーツ振興センターによる災害共済給付制度の給付対象とならない場合を鑑み，個人等で責任保険等に加入することを推奨する。

7 学校単位で参加する大会等の見直し

◆ 校長は、各部活動が参加する大会・試合や地域からの要請により参加する地域の行事・催し事（以下「大会等」という。）を把握し、生徒や部顧問の負担が過度とならないことを考慮して、参加する大会等を精査する。

○ 本校においては、学校の部活動が参加する大会等の全体像を把握し、週末等に開催される様々な大会等に参加することが、生徒や部顧問の過度な負担とならないよう、大会等の統廃合等を含めた大会の在り方について見直すとともに、部活動が参加する大会等の数の上限の目安等を下記のとおり定める。

・年間の大会等の数の上限を「10大会」とする。これには、全国中学校体育大会及び県新人体育大会、全日本吹奏楽コンクール等の予選は含まない。

○ 校長は、茨城県中学校体育連盟、県内の文化部活動に関わる組織及び鉾田市教育委員会が定める上記の部活動が参加する大会等の数の上限の目安等を踏まえ、生徒の教育上の意義や、生徒や部顧問の負担が過度とならないことを考慮して、参加する大会等を精査する。

・年間の大会数の上限である10大会を超える場合は、「部活動運営委員会」において協議し、校長の許可を得た上で参加できることとする。

おわりに

○ 「本校運営方針」は、生徒及び部顧問の両視点に立った、学校の部活動改革に向けた具体の取組について示す方針であるが、今後、少子化がさらに進むことを踏まえれば、ジュニア期におけるスポーツ・芸術文化等の活動のための環境整備については、長期的に、従来の学校単位での活動から一定規模の地域単位での活動も視野に入れた体制の構築が求められると考える。